

ジョージ・ソロス：サイコパスの中のサイコパス

【訳者注】サイコパス（普通の良心や人間的感情をもたない人）という言葉が最近、普通に使われるようになったのはよいことである。どんな人間も我々と同じはずだという想定に基づいて行動するのは、大きな間違いで、手ひどい目に逢うという忠告は、これまで何度か受けている（2016/2/13「イルミナティ理解のために」 p.2 など）。問題は、世界を牛耳っている人たちのほとんどが、サイコパスだということ、そして我々の新聞・テレビで紹介される世界解釈は、彼らのものだということである。これを読んで、自分のもっていたロシアやウクライナの見方が、ジョージ・ソロスのものと同じだったと気づく人は多いはずである。

前にも書いたように（3/16）、悪事を働きながら、世間を騙して恩人顔をする者がいたとして、そこまではなんとか我慢できるとしよう。しかしその者が、善意の誰かを、自分に従わないからといって、その悪事の犯人に仕立てるとしたら、我々は我慢できない。我々の世界はそういう者に支配され、ロシアやイスラム教徒が被害者になっている。

最後の一文が利いている——「悪いのは、やらせる者であり、やる者ではない。」

February 13, 2016

Sam Gerrans, RT (Russia Today)



サム・ジェランズは、英国の作家、翻訳家、サポート・カウンセラー、政治活動家。彼はまた、メディア、戦略的通信とテクノロジーなどの職業的経歴をもつ。彼の主たる動機となっているのは、究極の意味への関心であり、情報開示とリアル・ポリティークに焦点が置かれている。Quranite.com（コーランを伝統でなく理性に基づいて研究する）を開設し、SkypeTalking.com によって、個人的な言語訓練と個人的サポート・カウンセリングを提供している。



George Soros、ソロス基金管理会議長

ソロスに言わせると、ロシアの戦略は「移民問題を悪化させてイスラム憎悪を掻き立て、EUをまず内部爆発させることによって、自分の崩壊を逃れる」ことだという。

2月11日にガーディアン紙は、ジョージ・ソロスによる論文を載せたが、それはその前日にここで発表された、「プーチンは、ヨーロッパの存在にとって Isis よりも大きな脅威だ」と（題だけ取り替えた）同じ論文だった。

<http://www.theguardian.com/commentisfree/2016/feb/11/putin-threat-europe-islamic-state>

<http://www.project-syndicate.org/commentary/putin-no-ally-against-isis-by-george-soros-2016-02>

私は慌ててほつたをつねって、夢でないこと、この論文が本物であり、**The Onion** でなく **The Guardian** に載っていることを確かめた。ソロスの論文の趣旨となっている虚偽の内容を見る前に、サイコパスと言われているものについて、およその説明しておくのが順当であろう。

私はこれまでに何人かのサイコパスに出会っている——実害はあったが三流の、あるスペインの不動産“セールスマン”は、私の家族に多大の時間とカネをかけさせた。三流だろうと一流だろうと、サイコパスというものの本当の問題は、彼らが悪いことをするというよりも、我々、非サイコパスが、我々と彼らの間の基本的な違いに対処する用意ができていないことである。

我々実践的な良心を備えている者たちは、誰でも自分と同じものだと（間違っ）考えている。我々は、自分が口に言えないほどの悪いことはしない、あるいは、もしそんなことをしたら、生きていけないと感ずるようなことはしないから、すべての他の人々も同じだろうという想定の下に生きている。

彼らはそうではない。

サイコパスが嘘をついたり盗んだり、人を手玉に取ったりするとき——あるいは彼が欲しい物を手に入れるのに必要と考えることを、何でも行うとき——彼は自分の行動に対して、あなたや私が、昨日の昼食に関してもつ以上の感情をもつことはない。

我々、サイコパスでない者たちも、ちょっとした嘘をついたり、悪いことをしたりする。しかし我々は、それより先へは行かないという限度をもっている。サイコパスにとっては、程

度は関係がない。ある家族の全貯蓄を盗むこと、あるいは一国の経済を崩壊させたり、滅ぼしたりすることは、サイコパスにとって、勘定を間違えたレジ係に、10ドルを返さないでおく決意をするくらいの意味しかもたない。

そして、そのサイコパスが、あなたに対してどんな悪事を緻密に企てて行おうと、彼にとっては、生じたことは、すべてあなたが悪いからである——常に。

そこで話はソロスに戻る。

ソロス：プーチンはイスラム国攻撃において同盟者ではない

ガーディアン論文において、ソロスは「アメリカと EU は、プーチン大統領のロシアが、イスラム国との戦いで潜在的な同盟国だという、大変な思い違いをしている」と述べた。

この想定は虚偽に基づいている。私の同僚の、勤勉で真つ正直なジャーナリスト [Gearoid O Colmain](#) は、いわゆる“テロとの戦い”（イスラム国も含めた）は、彼が“わずかの恐ろしく暴虐な支配エリート”と正しく呼んでいる者たちの利益のためでは決してしない、という通念の根元に、これ以上ない鋭い斧を打ちおろした。

<http://gearoidocolmain.com/articles/>

RT とのインタビューに答えて、オコールマンは言った——「テロとの戦いなど存在しない。あるのはテロリスト傭兵集団を使った戦争であり、彼らは、アメリカとイスラエルの世界制覇に抵抗する国民国家に向けて使われている。彼らはまた、ヨーロッパの活動部隊を訓練する手段としても使われている。大規模失業や緊縮経済の時代には、テロ攻撃が、西側の情報局に支援され、武装され、訓練されたテロリストによって行われる。ISIS などというものは存在しない。ISIS はアメリカの創ったものだ。」

<https://youtu.be/L7GAbVhjTSw>

（政治評論家オコールマンがパリ攻撃を論ずる）

ソロスや彼の同類たちは、いわゆる“イスラム国”を創り出し、そこから利益をあげているが、彼の議論は事実を無視するだけでなく、このアメリカの創ったものに対処しようと踏み出した一つの大国、ロシアに矛先を向けようとしている。

ソロスはさらに、ロシアをさまざまに非難するが、その際、ロシアだけが合法的シリア政府からの要請を受けていること、あるいは、ロシアが真剣にシリアの清掃に従事して、アメリ

カはそのふりをしているだけだという事実を、常に無視している。

シリアでのロシアの成功は、Seymour Hershをはじめ、多くの方面から認められた（訳者：ジョン・ケリー米 국무長官さえ認めた）。ハーシュは高名な米ジャーナリストだが、残念なことに、アメリカのシリア政策の理由を理解できないでいる。

<http://sputniknews.com/politics/20160115/1033194681/seymour-hersh-syria-russia-success.html>

ソロス：プーチンはヨーロッパの失墜を目論んでいる

ソロスの次の論点は、「プーチンの狙いは EU の崩壊を起こさせることで、その最上の方法は、シリアの難民をヨーロッパにあふれさせることだ」というものだ。

本当を言えば、ロシアのごく自然な同盟国はドイツで、その同盟を妨げることが米政府の主たる狙いである——少なくとも、Stratfor 米情報局によれば。

<http://www.globalresearch.ca/stratfor-us-aims-to-prevent-a-german-russian-alliance/5437247>

ドイツの効率性と組織化能力が、ロシアの原材料、発明の才能、それに中国との良好な関係と結びつくことは、ISIS を援助したり指令したりしている者たちが、最も見たくないものである。攻撃的で、技術の未熟な、文化的に溶け込まない、アフリカなどからの経済難民の軍隊で、ドイツを占領することによって、このリアル・ポリテイクというチェス盤のプレイヤーは、その自然の成り行きを邪魔しようとしている。

ヨーロッパを不安定化させようとするソロスの仕事は、十分に証明されている。デイリー・メールは 2015 年 11 月、ソロスが、EU に対して「少なくとも年に 100 万」の難民を受け入れるよう盛んに勧めていると報じた。

<http://www.express.co.uk/news/world/616541/European-Union-Migrants-Refugees-George-Soros-Hungary-Viktor-Orban-Europe>

同じ記事で、ハンガリー首相 Viktor Orban の言った言葉が引用されている——「この侵略は、一方では人間密輸業者によって、もう一方では、国民国家を弱体化するものすべてを支持する政治活動家によって、推し進められている。この西側の精神構造と、この活動家のネットワークは、おそらくジョージ・ソロスによって最もよく代表される。」

ソロスは、この記事で、「世界全体の移民促進団体の基金源」だと言われているが、彼はオ

オーバンのコメントに応じて、自分の信念は「ヨーロッパの価値を支えるもの」だと論じた。

ソロスの言う「ヨーロッパの価値」とは何を意味するのか、私にはわからないが、それは我々にとって、結果的に、ソロス氏の決定による、はるかにより多くの難民を意味するのだろう。



セルビア、シドの町で列車に乗ろうと列を作る難民と亡命者たち

ハンガリーの首相として、オーバンは、おそらく大抵の人々より、ジョージ・ソロスのことをよく知っている。ソロスにはハンガリーのユダヤ人で、彼はハンガリーのナチスと協力することで、初めてビジネス界へ踊り出た。この情報は、彼自身の父の著書 *Masquerade—Dancing Around Death in Nazi-Occupied Hungary* (仮面舞踏会——ナチ占領下のハンガリーで死の回りを踊る) から出ている。だからソロスは、同胞のユダヤ人を敵にして、ナチスに協力することから、土着のヨーロッパ人民たちに対して、彼らの国がどんな民族構成であるべきかを教えることに、楽々と飛び移ることができた。

<http://www.project-syndicate.org/print/rebuilding-refugee-asylum-system-by-george-soros-2015-09>

彼はまた、ウクライナの破滅に大きな貢献をした。雑誌 *New American* に報告されているように、ソロスは「ウクライナに大きな足跡を残した。他の多くの国での彼の作戦と同じく、彼は過去 20 年にわたって、何千万ドルというカネをウクライナの非政府組織 (NGO) につぎ込んだ——彼らの国をより“解放された、民主的な”社会に作り替えるのを援助するという名目で。」

<http://www.thenewamerican.com/world-news/europe/item/17843-george-soros-s-giant-globalist-footprint-in-ukraine-s-turmoil>

<http://www.irf.ua/en/>

ジョージ・ソロスを真剣に受け取らねばならない十分な理由がある。

ソロスはロシアの崩壊を予期している

ソロスの論文は、プーチンの戦略的能力を見くびった上で、2017年には、西側の制裁と石油価格の強制下落による破たんによって、ロシアに政権交代が起こるだろうと予測している。

彼は、ヨーロッパの“崩壊”はプーチンの陰謀によるもので、ロシアはその結果としての利益を見込んでいたらしい。「メルケルが正しく予想したように、難民危機はそれを滅ぼす潜在能力をもっている」と彼は書いている。

もし、あなたがここで思わず、「ではどうして彼女はその危機をつくり出したのか？」と尋ねるなら、それはあなたがサイコパスでないからである。

ソロスの論文は、形而上学的（空想的）な社会的観察へと下降し始めるが、これは背後に何十億ドルというカネをもっていない者から見れば、単なる主観的な臆想に思えるだろう。それから彼は、プーチンのロシアを真の脅威と決めつけて結んでいる。

典型的サイコパス症状

これは単なる“厚かましき”ではない。ソロスが示す特質は、典型的なサイコパス症状のそれで、自分のやったことを他者のせいにして、その人を攻撃するのがサイコパスのやり方である。

この場合、ソロスは、彼が解決しようと公言している問題をつくり出すことに、自分が大きくかかわっている事実を、全く無視している。その一方で彼は、シリアでの戦争に真剣に取り組もうとする唯一の国、ロシアを、彼ソロスが莫大なカネをかけて企んだ“移民”の、背後にいるのだと言って非難している。

ソロスは、晩さんの席で国家転覆を図るような陰謀団の仲間である。サイコパシーが、そういう者たちに要求される資格の基本である。だから、もしあなたが、良心というものが、彼やその仲間をどの時点かで引き止めて、あなたや家族が、ドンバス地区の住民たちが経験したと同じような状態にまでは達しないだろうと考えるならば——あるいは、あなた自身がそんなことは考えないから、西側政府も崩壊を計画するようなことはないだろうと考えるならば——あなたは自分が間違っていたと気づくだろう。

ヨーロッパがほころび始め、その兵士たち（ソロスのカネによって、一代のうちに、現実の兵士から、女性化された、文化的レミングに変貌した兵士たち）が、彼らの甘やかされた妄想が打ち砕かれて、ソロスの企んだ“崩壊”が始まったと言って、不信のがなり声を立てても、ソロスは全く気にしないだろう。これがヨーロッパであって、狙われるのが今度はあなたであり、黄色人種や東欧民族ではないとしても、そんなことは関係がない。

サイコパスにとってそれは単純である——悪いのは、やらせる者であり、やる者ではない。